

〔有機銅・TPN 水和剤（フロアブル）〕

# シトラノフロアブル

有効成分：8-ヒドロキシキノリン銅（化管法1種） …… 23.0%  
 TPN（化管法1種） …… 23.0%

性 状：黄緑色水和性粘稠懸濁液体  
 毒 性：－  
 危 険 物：－  
 有効年限：3年  
 包 装：500ml×20本

シトラノ：登録商標第 3067419 号

## 〔特長〕

- 幅広い活性スペクトラムで基幹殺菌剤に適している。  
 細菌（バクテリア）に効く有機銅と糸状菌に幅広い活性スペクトラムをもつTPN（ダコニール）との混合剤である。保護作用を中心とした薬剤で、予防効果に優れている。
- 耐性菌の心配がほとんどない。
- 有効成分が微粒子なので、作物に均一に付着し安定した効果を発揮する。
- 作物の汚れが少ない。
- 水中分散性、懸垂性に優れ、散布液の調製に手間がかからない。また、散布液調製時に粉立ちがないので、薬剤を吸引したり、皮膚に付着することが少ない。

## 〔適用病害と使用方法〕

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	有機銅を 含む農薬の 総使用回数	TPNを含む農薬の 総使用回数	
りんご	斑点落葉病 黒点病 褐斑病 すす斑病 すす点病 輪紋病 モニリア病 炭疽病	1000	200～ 700ℓ／ 10a	収穫 45日前 まで	3回以内	散布	7回以内（塗布： 3回以内、 散布：4回以内）	3回以内	
	着色期前まで 但し、収穫 30日前まで			8回以内（塗布： 3回以内、 散布：5回以内）					
	収穫30日 前まで			12回以内（塗布： 3回以内、 散布：9回以内）					
かき	落葉病 うどんこ病 炭疽病	1000 ～1200	100～ 300ℓ／ 10a	収穫30日 前まで	5回以内	散布	5回以内	14回以内 （土壌灌注：2回以内、 散布、常温煙霧、くん煙 及びエアゾル剤の噴射： 合計12回以内）	
西洋なし	輪紋病 ごま色斑点病			収穫14日 前まで			3回以内		3回以内（は種又は定植 前の土壌混和：1回以内、 散布、無人航空機散布 及びエアゾル剤の噴射： 合計2回以内）
きゅうり	褐斑病 べと病 斑点細菌病			収穫30日 前まで			5回以内		3回以内（は種又は定植 前の土壌混和：1回以内、 散布及び無人航空機散布： 合計2回以内）
キャベツ	黒腐病 べと病	1000	100～ 300ℓ／ 10a	収穫21日 前まで	3回以内	散布	5回以内 （土壌灌注：2回以内、 散布及び無人航空機散布： 合計3回以内）		
はくさい	軟腐病 べと病 白斑病			収穫21日 前まで			5回以内	5回以内 （土壌灌注：2回以内、 散布及び無人航空機散布： 合計3回以内）	
レタス	すす枯病 腐敗病 べと病 軟腐病	1000							

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	有機銅を 含む農薬の 総使用回数	TPNを含む農薬の 総使用回数
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	1000 ~1200	100~ 400ℓ/ 10a	収穫開始 3日前まで	4回以内	散布	5回以内	4回以内
しょうが	白星病 紋枯病	1000	100~ 300ℓ/ 10a	収穫14日 前まで	5回以内			無人 航空 機に よる 散布
		16	3.2ℓ/ 10a			6回以内		
やまのいも	炭疽病 葉渋病	1000 ~1200	100~ 300ℓ/ 10a	収穫30日 前まで		散布		6回以内

## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用直前に容器をよく振って薬剤を均一にする。
- 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤等との混用はさける。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守る。
  - ① 散布は散布機種種の散布基準に従って実施する。
  - ② 散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用する。
  - ③ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行う。
- 病害の多発時の使用では効果が劣る場合があるので、病害の発生の多くならないうちに発症初期から1~2週間おきに予防的に散布する。
- りんごに使用する場合、サビ果の発生を多くすることがあるので、開花直前から落花20日頃までの使用はさける。また樹勢の良くない状態などで連続散布すると生理落葉を助長することがあるので注意する。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種では注意する。
- きゅうりの斑点細菌病、キャベツの黒腐病、はくさいの軟腐病、レタスの腐敗病、軟腐病などの細菌性病害防除に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので、発病前~発病初期から予防的に散布する。
- かきに使用する場合、夏期高温時及び着色期以降の散布は、果実に薬害を生じるおそれがあるのでさける。
- 西洋なしに使用する場合、夏期高温時の散布は、葉に薬害を生じるおそれがあるのでさける。
- 本剤は衣服等に付着すると着色するので取扱いに注意する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## ⚠ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 夏期高温時の使用をさける。



- 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをして衣服を交換する。作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。



- かぶれやすい人は作業に従事しない。施用した作物等に触れない。



- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。



- 魚毒性…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意する。養殖池周辺での使用はさける。無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意する。使用残りの薬液が生じないよう調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さない。空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

[保管]：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管する。

化管法に対応するその他の注意事項は別表の分類4に表示してある。

---

農業登録(登録番号): エス・ディー・エス バイオテック (19668)、アグロ カネショウ (19669)

販売: アグロ カネショウ